

教え「愛」・助け「愛」・支え「愛」

広島市立観音中学校

生徒数 603人

TEL 082-232-0458

実践内容

実施目的

- 「生徒同士のつながり」を通じて、運動の楽しさを知り、自己の体力を向上しようとする態度を育み、仲間と協力して運動に親しもうとする習慣を身に付ける。
- 運動の苦手な生徒が「わかる」「できる」実感をもつことができるよう、保健体育科の授業改善を行い、体力の向上を図る。

実施内容

- 保健体育科の授業改善
 - 年間指導計画の見直し・作成
学校の実態、生徒の心身の発達段階や特性等を考慮し、中学校の3年間を見通した上で、年間指導計画の見直し・作成を行う。(武道の授業では、1・2学年に相撲を取り入れる。)
 - 補強運動の充実
 - 授業の導入に、力強い動きを高めるための運動(腕立て伏せ、馬跳び、腹筋、背筋)を取り入れ、計画的・継続的に補強運動を実施する。
 - 「主運動との接続を図った運動事例集(平成25年広島市教育委員会)」を参考に、各単元や内容の特性に応じた補強運動を実施する。
 - 言語活動の充実に向けた取組
 - 各運動場面で、仲間のよい動きに賞賛を送る、互いの良い動きを認め合う、互いに教え合うなどのコミュニケーションを図る学習活動を充実する。
 - 自己の課題解決に向けて、技術的なポイントなどの視点を明確にし、互いの動きを観察させる学習活動を充実する。

(4)学習したことを実生活に生かす取組

体づくり運動の学習では、自己の体力の状況を把握させ、実生活での改善方法を考えさせながら、課題に応じた運動の計画を作成させる。

2 各教科及び特別活動との関連を図った取組

- 各教科で少人数(4人)のグループを編成し、生徒が主体的に課題解決に取り組んだり、仲間同士でアドバイスができるような学習場面を設定する。
- 「宿泊研修」(1年生4月)で、「かわり合い」の意義について学習する機会を設ける。
- 「体育大会」(毎年6月)の種目に、ムカデ競争や大縄跳びを取り入れ、クラスの仲間と協力して楽しく運動を実践できる機会を設ける。

実施上で工夫したこと

- 新体力テストでは、昨年度の全国平均を提示しその記録を上回るように意識づけを行った。
- 生徒の実態と運動の特性を踏まえた単元指導計画を作成し、指導内容の明確化と学習評価の充実を図った。
- ICT機器を活用し、生徒同士で自己の運動を撮影した動画を見て、互いに動きのポイントを確認し合う学習場面を設定した。
- 全校集会等で、新体力テストの全種目で前年度の当該学年の全国平均値を上回った生徒を対象に、「体力優秀賞」(広島市教育委員会交付)の表彰を行った。



相撲の授業の様子

「どすこい!!」と気合を入れて!!



計画的・継続的に補強運動を実施

高まる体力要素を意識して、しっかりと取り組む



タブレットを活用した交流場面の設定

「さっきより上手にできてるよ!」



体育大会でのムカデ競争の様子

心と声を合わせて一歩ずつ



宿泊研修の様子

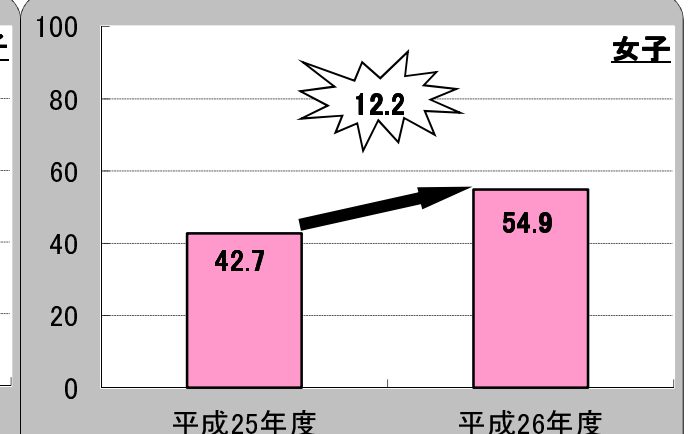
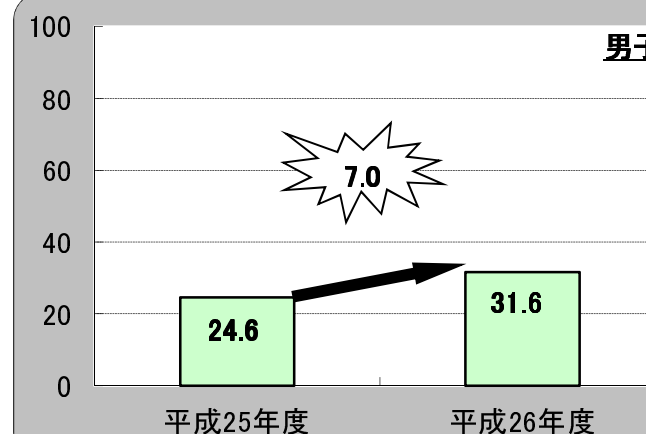
頭を寄せ合って考え中



体育大会での大縄跳びの様子

3週間にわたる練習で団結力UP

全校生徒における総合評価ABの割合(%)の推移



主な成果

- 授業等で「生徒同士のつながり」を仕組みることにより、生徒同士が教え合い、楽しく体力づくりに取り組む状況が見られた。また、武道の授業に相撲を取り入れ、指導方法の工夫・改善を図ることにより、運動に対して苦手意識をもっていた生徒も意欲的に取り組む状況が見られた。
- 平成26年度全国体力・運動能力調査における生徒質問紙調査で、「保健体育の授業は楽しい」と回答した生徒の割合が、全国平均を上回った。

●保健体育の授業は楽しい

